

## 主な提言等と回答要旨(中学生保護者対象)

提言等の項目	H26秋に開催した「市長と語る会」	
	皆さまからいただいた主な提言等	その際の回答要旨
通学路の街灯	早月中学校区の通学路が夜になると暗い。大きい道路に比べ、小さな道路に街灯が少ないため、坂道などもあり、例えば生徒たちが密集して自転車を引いて坂道を上がってくる時も見づらくて危ない。県道、市道などの別もあると思うが、街灯設備の充実をお願いしたい。	街灯の新設については、町内会からの要望を受け、市が補助しており、設置費などは全額補助対象です。電気代や電球交換にかかる消耗品費などの維持管理費は、町内会での負担をお願いしています。通学路への街灯設置に関するご意見は、別の会場でも出ていますが、市側で積極的に新設することはなく、地域のご要望が前提となりますので、まず町内会から要望書をいただけますようお願いいたします。
消防署から各消防団への一斉サイレン	消防団員だが、以前は各分団でも鳴っていた火災時等の一斉サイレンが、最近、消防署だけでしか鳴らない。実際に火事が起きた際、分団員の参集が悪くなり、出動に遅れが出るなど支障がある。もとどおり全域一斉に鳴らしてほしい。 また、設備のデジタル化に伴い、現状のアナログ設備を使えなくなる関係で、来年から一斉のサイレン自体が鳴らなくなると聞いた。火事どころか、震災や大津波、隣国からのミサイル飛来時も市民にシグナルが出せず、極めて危険なので至急、手立てを打ってほしい。	国の方針を受け、消防の通信システムのデジタル化が進む中、今後は各分団のアナログ方式のサイレンは使えなくなります。消防当局から市当局への報告が非常に遅かったため、速やかに対策を検討中です。消防署が分団からの意見も集約し、適切な案を検討していきます。また、緊急時や有事には防災行政無線を自動的に一斉放送する仕組みですが、これもアナログ式です。これは、デジタル化すると各家庭の防災ラジオ(アナログ式)が使えなくなりますので、当分は更新せず、継続利用します。
通学路	8号バイパスをくぐって早月中学校と「なごみ苑」の間を通る道路が通学路となっているが、幅は車がすれ違える程度で、白線が引かれているが歩道がなく、車と徒歩や自転車通学の生徒が同時に通り、危険である。「子ども第一主義」の観点から歩道を作ってほしい。	北加積小学校区のPTAをはじめとする地域住民の要望活動、県新川土木センターに対する要望の結果、いわゆる「ダンプ街道」の歩道整備が、およそ20年をかけてようやく完了しました。今回ご指摘の道路は、やむをえず代替的に通学路として使っていた道路が、いまだに通学路になっていることと思います。ぜひ、歩道整備が完了した道路を使っていただきたいと思います。
土曜学習	最近の若者は、とても能力が高い反面、自分で道を切り開くことが苦手だと思う。滑川の特色ある教育として、月一回の土曜学習を今後も広げ、同時に市長が重要視するスポーツ振興も図り、文武両道で生活力や応用力、柔軟性のある人間育成につなげてほしい。	滑川市の土曜学習は、この1年目は国の補助対象に指定され、県の研究対象にもなりました。各校の特色、校長のリーダーシップで企画を展開しています。中間報告のアンケートを現在行っているところで、次年度以降の方針を詰めています。また、ご指摘の学力向上の観点からも土曜学習の効果が期待され、国の学習指導要領の時間数、学習内容が増える中、進度に追いつけない子に対する補習などにも活用できます。ご指摘のように、各校の特色を生かしながら、学力だけでなく、たくましい生活力、生きる力をつけられるよう、これからも地域や保護者の皆様のご協力をお願いします。
「市長と語る会」の開催案内が遅い	この秋の部で、前回の参加者が3名だったと聞いた。今日の会も、私自身、朝になって突然動員されたところで、中学校のPTA関係者の皆さんが動員なさった結果、ようやくこれだけ集まった。直接市長に、要望を伝え、すぐに回答をいただける非常に良い機会なので、今後も続けてほしいが、案内から開催までの期間が短いと、各校のPTAは要望や意見の集約に充てる時間すら無い。有意義でにぎやかな意見交換の場になるよう、今後はより早い時期の開催案内と、参加しやすい雰囲気作りにも努めてほしい。	4年間、春と秋に1回ずつ「市長と語る会」を9地区で実施してきましたが、参加者のほとんどは町内会役員で、顔ぶれが固定化していたため、年2回も実施する意味が薄れていました。「市民が真ん中の市政」をモットーに、今後は幅広い層の皆さんから、夢のある話をたくさんお聞かせ願いたく、早めの開催案内に努めます。また、「市長と語る会」の場に限らず、市長室のカギはかかっておらず、扉がいつも開け放たれているので、ぜひ気軽にお立ち寄りください。
学校の備品や設備の充実	滑川中学校の育成会で、学校の備品や設備の現状について調査をしたところ、音響システムや照明の老朽化など、問題点や不十分な点が判明した。市の予算制約も考慮し、保護者は子どもたちの通う学校を少しでも良くしようと、育成会の資源回収やバザー開催で出した利益を備品の充実に充てるなど、自助努力に努めている。市からの補助について、経費の100%とは言わないが、半分や3分の1でも出してもらえないか。	必要な学校の備品や設備は、基本的には市が負担すべきものです。毎年、教育委員会では、各学校から、修繕すべき箇所などを集約していますが、予算制約もあり、全てを賄えるわけではありません。市では特に、理科教育を重視し、生徒が良い環境で学習できるよう、理科備品の充実に努めているほか、小中学校の耐震化や全教室への空調導入を進めてきました。今後も様々な意見をお聞かせいただき、よりよい学校の備品や設備の充実に努めていきます。
子ども図書館と図書館の休館日	子ども図書館が入居する市民交流プラザは休館日が水曜だが、図書館は月曜だ。市民が利用するうえで、双方の休館日がわかり辛くなるおそれがあり、今後、休館日を統一する考えはないか。もし、違うのなら、周知の徹底をお願いしたい。	ご指摘の通り、両施設の休館日は異なりますので、周知の徹底に努めます。全国には、コーヒーが飲めたり、本の作者を招いたりするなど、工夫を凝らした図書館があり、子ども図書館についても充実した楽しい施設になるよう、運用方法について今後も研究を重ね、人生の豊かさや生きがいにつながる読書習慣の定着や図書文化の開花につなげたいと思います。